

どんびま

2014年3月14日発行
発行者 椛の湖農業小学校

春を待つ

冬の間山に帰っていた山の神を、田の神として里に迎えるお祭りである山の講が済むと、いっぺんに春めいてくる。いつもの場所に行くと見ると、フクジュソウが茎を伸ばし始めていた。

茎が伸び葉が伸びるとまたいくつかの花を咲かせる。夏になりかけて、ふと思い出して見ると、もう枯れていて、翌春までを地下で過ごす、初春の花の代表格である。

春は名のみのお歌のごとく、まだまだ寒さが戻ったり、雪まで降ったりしているが、農家の気持ちは畑に向かっていく。

今月号から絵を描いてくれる人は、私たちの仲間フォークグループ我夢土下座（カムトゲザ）のメンバー間宮亨さんに代わった。何年前の雨のキャンプの夜、感動的なキャンドルサービスを演出・指導してくれた人である。（草）



3月授業日のご案内

- | | | | |
|----------------|-------------|------------|-----------------------------|
| ●日程 | 3月30日（日） | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00～9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、食器（皿、汁用椀、湯のみ）箸 |
| 入学式 | 9:30～11:00 | | エプロン、軍手（五平餅焼き用） |
| グループ紹介 | | | 寒さ対策もお忘れなく。 |
| 学校・農場の説明 | | | |
| グループ活動 | 11:00～12:00 | ●昼食 | 五平餅（グループ活動の中でみんなで作ります） |
| 昼食 | 12:00～13:30 | | 豚汁など |
| 授業 | 13:30～15:00 | | |
| じゃがいも植え | | | |
| ほうれん草・にんじんの種まき | | ●返信はがき締め切り | 3月25日（厳守） |
| 終わりの会 | 15:00～15:20 | | |

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362（山内總太郎）

～とくちゃんの農小レポート～

椀の湖農小課外授業活動報告

平成18年から始めた課外授業も、今年度で8年目をむかえました。例年同じ様な内容となっておりますが、生徒さんが変わってきていますので、楽しんで頂いております。

***12月22日(日) 藁細工。花餅。 5家族 15名参加**

午前中は注連縄(しめ縄)作りを行い、門松用のしめ縄と玄関飾りと車用などに挑戦しましたが、縄の縄い方が結構難しい様子でしたが、果敢に挑戦し完成しました。

午後は花餅作りを行いました。飛騨地方では現在も「花餅市」が立つほどですが、当地方も昔は各家庭で必ず作っていましたが、冬に花が手に入るようになってからは自然と廃れてしまいました。各家族に2台宛での台木をもらい、夫々の工夫を凝らして枝に餅を飾りつけました。持ち帰った花餅は3月に「雛あられ」にして食べて頂くと楽しいかと思えます。

***1月5日(日) 凧づくり。左義長体験。 3家族 10名参加**

凧は三角(ダイヤ)凧を作りましたが、生憎今回は年末からの無風状態が続き、高くまで揚がらず残念な結果になりました。3月の入学式に来られる生徒さんは是非農小で揚げてみて下さい。

午後は左義長(どんど焼き)体験をしました。アボ兄が準備してくれた材料を使い、皆で造りあげて点火し赤々と大きな炎をあげました。天下公認の火遊び?はなかなか止まりませんでした。

***2月23日(日) 絞り染め。からすみ作り。 5家族 15名参加**

加藤緑先生を招き絞り染めを行いました。各自持参のTシャツやタオルなどに絞りを入れて染めあげました。アイデアがいっぱいの世界に一つの「マイTシャツ」に満足そうでした。

午後は「からすみ」を作りました。当地方に古くから伝わる米粉を使った蒸し菓子で、木型を使って富士山の形を作り蒸します。粘土細工気分でも楽しそうでした。出来上がりを皆さんで試食したのち持ち帰りも沢山ありました。

農小スタッフ 小林 銷男

～安保兄の百姓ぼなし～

アオムシ捕り隊とハウレンソウ

2月末のこと、地元の保育園児30名と先生4名があぼ兄の家の玄関に並んだ。大きな声で「3月3日、ひな祭りに来てください。」と、A2サイズの招待状を受けた。

何があっても行かなくてはと思っていた3月3日、幸いチチミハウレンソウの収穫期であったので、手土産に持って行くことにした。その時、ハウレンソウとポパイの話をしたら、年輩の先生が「その話は私たちの時代のこと」と一笑された。ポパイはアメリカの漫画の主人公で、缶詰のハウレンソウを食べると怪力を得る船乗りのことだ。日本でテレビのアニメが流行ったのは昭和の30年代のことなのだ。

丁度その前に、東京から電話があった。料理新聞社の社長、日出山みなみさんだった。6年ほど前からアジメコショウで親交があり、4月の好辛倶楽部総会に来ていただけることになっている。あぼ兄がチヂミホウレンソウを送ったそのお礼の電話だった。ポパイの話をしたら、今でもその関係はあるとのこと。缶詰のホウレンソウを口に流し込む姿は、ホウレンソウの素晴らしさを表現したものだということだ。日出山さんは、電話の最後に「4月に行った時に、あぼ兄の腕の力こぶを見るわよ。それまでに大きくしておいてね。」と言われた。

園児たちの前で、あぼ兄は腕まくりをして見せた。そうしたら、ホウレンソウを早く食べた子らは腕まくりをして、硬さを見てくれとあぼ兄に寄って来た。あぼ兄のすぐ前に座った子は、チラシ寿司とサラダと汁ものは食べたものの、ホウレンソウだけは残していたので、食べないのかなあと思っていると、少ししたら全部食べてニコニコしていた。先生によると、普段は青い野菜はあまり食べない子だということだった。「良く食べたね。おりこうさん。」と誉められていた。他の子たちも、残した子はいないようでホッとした。

下野保育園とは長年のお付き合いが続いている。毎年、キャベツが巻き始める時になるとアオムシとり隊の出動を願うのだ。あぼ兄は園児たちに捕ってもらえると、農薬をかけなくて済むからありがたいのだが、子どもたちを試みれば、アオムシを捕るのは、育てて蝶にしたくて来ているのだ。最初は、教育上殺すわけにもいかず、全部お持ち帰りをしてもらった。

農協の職員が来て、「あぼ兄は人が良すぎる。全部が孵化して蝶になれば、500mと離れていないあぼ兄の畑へ、羽を合わせて御礼参りに来るわ！」と、けなして行った。その話を園長先生にしたら、先生曰く「お産のための里帰り」一枚上手にやられてしまった。

翌年からは、アオムシのお持ち帰りを制限させてもらった。中にはポケットに隠していた子もいたが、そこらへんはゲーム感覚でやる。

アオムシ捕りの御礼にはスティックブロッコリーを3本づつあげることにしている。本当はアオムシをつかむことなど嫌な子もいるのだろうが、皆が競い合うように捕る姿を見れば、いやだなんて言っておれないだろう。

生き物に触る体験は、きっかけはいろいろあると思うが、やれば自然にできるようになる。その体験は楽しさに変わる。他の保育園に聞いてみると、先生方もその気がないし、もちろん子どもたちも、体験することはない。

ある学校の給食係が、「スティックブロッコリーは美味しいが、アオムシはいらない。」と言う。「なら、一度だけ消してもいいですか?」と聞き返す。消毒したものはムシの死骸が莖にくっついていて、消毒がしてなくてムシがいても、ムシは水に入れると浮いてくるのだ。

そんな時には、東京でアルバイトしていた甥があるキャベツ農家で働いていて、農家の方にこんなに消毒してもよいのかと質問したら、翌日から断られたという話を思い出す。見た目がきれいな農薬漬の野菜よりも、少しくらい穴があいていても安全な野菜を理解してほしいのが、あぼ兄たちの気持である。



そんなことを思いながらみんなで野菜づくりをしたい。
命と向き合う体験、小さな種が大きな野菜に育つ、小さな虫とも出会う。
そんな体験をしてほしい。
今年は農小を立ち上げてから21年目になります。
この顔は、畑でみなさんのお手伝いをする校長のあぼ兄です。
椀の湖農業小学校で皆さんにお会いできる日を楽しみに待っています。

～かなちゃんの虫日記～

入学おめでとうございます。

まだまだ暑い日もありますが、とうとう暑が過ぎますね。
そうやってくると虫たちの季節です。

虫は季節にあわせて生活をしています。

冬はさむくて、食べるものもないのでじっとしています。

春から秋のあたりに、食べるものがある時にたくさん動きます。

虫は、種類によって、「種類の葉っぱしか食べないもの、
たくさんの種類の葉っぱも食べるものなど」いろいろですが、
食べれるものが決まっています。

「ちがついてみよう」「かみついてみよう」「のみこんでみよう」と



思おせてくれる成分がそろってないと食べません！

意外と繊細ですね。みなさんは女子嫌いせずになんでも
モリモリ食べましょうね。

田んぼはお米を、畑は野菜を、人が季節にあわせて作るころ。
田んぼや畑をすみかとして、お米や野菜を食べる虫は
人が毎年田んぼや畑を作ることによって生きていけます。

やっぱり、女子嫌いせずにお米や野菜をなんでも食べることが
田んぼや畑を作つてくれることになるので、虫のためにも大事ですね。